

はじめての

# 万葉集

日本に現存する  
最古の和歌集「万葉集」を  
わかりやすく紹介します

vol.116

## 春日王と春日宮

この歌は、冬に人目を引く赤い実をつける山橘(別名: 戴柑子)になぞらえて、秘めた恋心を顔色に出して世間に知らせるような女性へ促したもので、『万葉集』巻四、相聞の部に収められています。

作者の春日王は、父の志貴皇子(天智天皇の皇子)、母の多紀皇女(天武天皇の皇女)の間に生まれた男子で、天智・天武両天皇を祖父とする高貴な血統の王族です。

志貴皇子には、多紀皇女の他に紀椋姫という妻があり、椋姫との間に生まれた男子の白壁王は後に即位して光仁天皇となりました。光仁が即位した七七〇年当時、志貴は既に亡くなつて

あしひきの 山橘の 色に出でよ  
語らひ継ぎて 逢ふこともあらむ

かすがのおおきみ  
春日王 巻四(六六九番歌)

### 訳

山橘の赤い実のように、あなたのお気持ちを面に出してしまいなさい。そうしたら人が語り伝えて、やがてお逢いすることもありましょう。

いましたが、志貴には「春日宮御宇天皇」という追号が贈られ、以後は天皇の父としての扱いを受けました。

志貴の追号に見える春日宮は、彼が所有していた宮の名前です。志貴が亡くなつた際に作られた挽歌が『万葉集』巻二にあり(二二二〇～二二二二番歌)、それらの中に「高円山」「御笠山」

育には彼の父方祖母と関わりのある春日氏が携わつたのかもしれない。すると、七二六年に志貴が亡くなつた後の春日宮は、春日王が継承した可能性もあるでしょう。  
(本文 万葉文化館 竹内亮)

など春日一帯の地名が見えることから、志貴は春日宮において亡くなつたと考えられています。また、志貴の母である越道君伊羅都売は北陸地方を本拠地とする道氏出身の采女で、道氏は春日一帯を本拠地とする春日氏との関わりが深いとされ、志貴は春日氏との関係により春日宮を所有したと言われています。古代の王族の名前には幼少期の養育に関与した氏族名が付けられることが多いので、春日王の養



## 万葉ちゃん のつばき

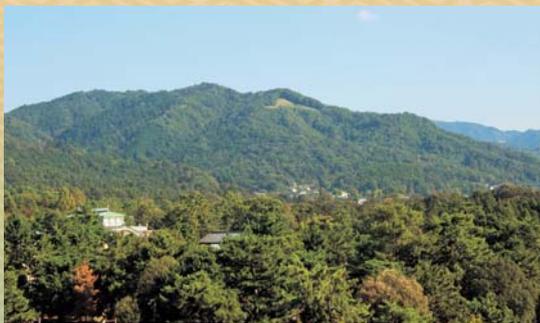
和歌や  
作者などに  
関連するものを  
紹介するよ!



万葉ちゃん

## 高円山

志貴皇子の春日宮が近くにあったと考えられる高円山は、春日山の南に位置する標高432mの山です。山頂からは、奈良盆地を眼下に一望することが出来ます。また、8月の奈良大文字送り火が行われることでも知られています。



所 奈良市白毫寺町  
園 県景観・自然環境課  
☎0742-27-8753